

第10回企画展 テーマ展示 近代国家制度の形成 ③

# 子規と帝国大学

2016年2月23日(火)~2017年2月19日(日)

## 休館日

毎週月曜日(休日の場合は開館)

## 開館時間

午前9時00分~午後6時30分

(入館は午後6時まで)

## 観覧料

一般 400円(320円)

高校生 200円(100円)

高齢者(65歳以上) 200円(160円)

※中学生以下は無料 ※()内は20名以上の団体制引料金



制服姿の正岡子規《松山市立子規記念博物館提供》／帝国大学時代の赤門

坂の上の雲ミュージアム

SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM



# 子規と帝国大学



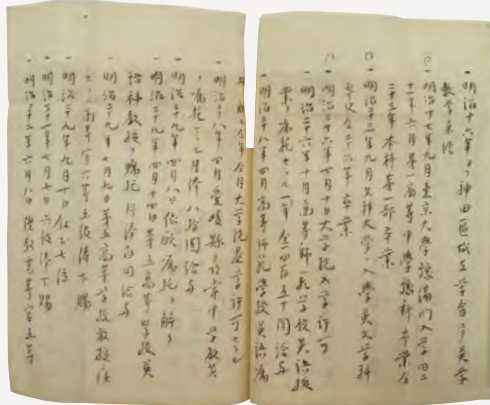
正岡子規



夏目漱石



帝国大学学生服(複製)《株式会社トンボ所蔵》



夏目漱石の履歴書《東京大学駒場博物館所蔵》

近代教育制度の確立をめざす明治政府は、小学校の普及をはかると同時に、高等教育機関の整備を進めました。1877(明治10)年に東京大学が発足しましたが、当時の高等教育機関は、各省庁の設置した諸学校が並立する複雑な状況にありました。

明治19年に「学校令」が公布されると、小学校・中学校・大学を一連のものとする教育制度が確立、複数の高等教育機関を吸収した帝国大学が誕生しました。帝国大学では、日本の最高

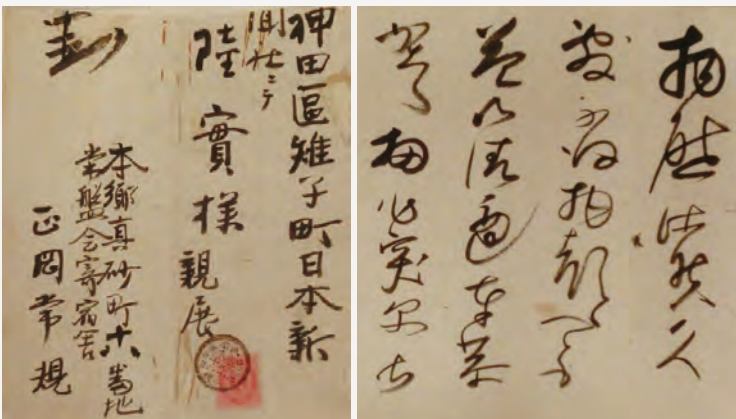
学府として国家の求めに応じた教育・研究が行われるようになっていきます。帝国大学の卒業生には高級官吏への道が開かれ、立身出世の道程が明確になりました。

明治23年に第一高等中学校(東京大学予備門の後身)を卒業した正岡子規や夏目漱石たちは、エリート養成学校となった帝国大学に進学しました。立身出世の夢を抱き上京した子規でしたが、第一高等中学校時代に俳句を本格的にはじめ、その後、小

説や紀行、評論など文学活動に没頭していきます。明治25年の試験に落第した子規は、退学を決意します。子規は、さまざまな進路を模索するなかで、日本新聞社への入社を選択しました。

当時の大学生たちは、自らの能力や希望と、立身出世を望む世間とのあいだで葛藤したのです。

今回の展示では、帝国大学時代の子規や友人たちの活動に注目しながら、明治の大学教育、学歴エリートたちの実像に迫ります。



陸羯南あて正岡子規書簡(明治24年10月21日)《愛媛県美術館所蔵》

## 坂の上の雲ミュージアム

SAKANOUE NO KUMO MUSEUM

〒790-0001 愛媛県松山市一番町三丁目20番地 TEL 089-915-2600 FAX 089-915-3600  
E-mail:saka-museum@city.matsuyama.ehime.jp URL:http://www.sakanouenokumomuseum.jp/

アクセス

- ・JR松山駅から [所要時間約10分] 市内電車(道後温泉行) 大街道下車 徒歩2分
- ・道後温泉から [所要時間約10分] 市内電車(全線) 大街道下車 徒歩2分
- ・松山空港から [所要時間約30分] リムジンバス(道後温泉行) 一番町下車 徒歩2分
- ・松山観光港から [所要時間約30分] リムジンバス(道後温泉行) 一番町下車 徒歩2分
- ・松山自動車道松山インターから [所要時間約20分]

